

第3回 白子町総合計画振興審議会 議事録（要旨）

【日時】

令和5年2月16日（木）14:00～16:00

【場所】

白子町役場 2階第2会議室

【出席者】

○振興審議会委員

芹澤豊委員、鶴岡一宏委員、酒井良信委員、大多和正之委員、秋葉広行委員、河野洋平委員、森徳郎委員、阿比留勝利委員、森伸也委員

○事務局

大矢務企画財政課長、大塚嘉一企画財政課長補佐、加藤孝行企画政策係長

○株ぎょうせい

営業：國吉広大 研究員：井澤和貴

【次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 審議事項
 - (1) 第2回振興審議会における主な意見と計画の反映について
 - (2) 意見募集（パブリックコメント）の結果について
 - (3) 後期基本計画（最終案）について
 - (4) 町長への答申について
4. 町長への答申
5. 閉会

【資料】

- ・第2回振興審議会における主な意見と計画の反映について
- ・白子町第5次総合計画後期基本計画（原案）
- ・答申書（案）

【議事要旨】

1. 開会
大塚企画財政課長補佐より開会の言葉。
2. あいさつ
芹澤会長よりあいさつの言葉。

3. 審議事項

(1) 第2回振興審議会における主な意見と計画の反映について

大塚企画財政課長補佐より、第2回振興審議会における主な意見と計画の反映について説明が行われた。

○審議

委員：計画の反映ということについて異論はないが、再確認をしたいのが、原案のp.84「土地利用・市街地整備」の基本目標1〈成果指標〉単位が「ー」になっている。組織が立ち上がっているわけではないということもあると思うが、会議であれば、「開催数〇〇回」などが考えられるのではないかと。

また、目標値が「1」となっている。これは、どのように読めば良いのか説明をいただきたい。

事務局：成果指標の前に、基本的な方向性が示されているが、都市計画マスタープランの改定に伴い、このようなアクションを起こす。ただし、この改訂作業自体が、まだ着手されていない。令和5年度に予算化をして、所管課は建設課となり、着手をする予定である。その着手をした後に行っていく予定である。

目標値の令和9年度の「1回」は最低限の数であり、私はもう少し行うことが出来ると考えている。ただし、都市計画マスタープランの改定が令和5年度以降に進んでいくため、どのあたりの改定作業が進んだ段階で、こういった推進会議が開催できるかは、不透明なところがある。そのため、最低限行う回数で、「1」とした。個人的な感覚では、もう少し出来ると思う。追加して、仮称の「コンパクトシティ推進委員会」がふさわしいかというのも検討していかなければならない。この振興審議会で議論するのがふさわしいのではないかと感じている。

委員：これは、(仮称)で推進委員会となっているが、コンパクトシティ構想は、都市計画マスタープランとは別に、コンパクトシティ構想を立案するものなのか。

事務局：都市計画マスタープランの改定に合わせて、「コンパクトシティの構想」を作るかどうかは、まだ詰めていない。ただし、都市計画マスタープランを改定する中で、どこまで線引きができるかは不明であるが、商業に関わるエリアや、公共施設がある程度集まるエリアについては、明確化した方が良いのではという意見もいただいている。そういったところも踏まえて、コンパクトシティが出来るかどうか吟味したい。このコンパクトシティの名称も以前から委員の指摘を受けているが、国が定義する「コンパクトシティ」とは若干異なる部分がある。そういったところで、町独自の考えになるため、もう少し考える必要があるのではないかと。

委員：都市計画マスタープランが平成28年の5月に策定されている。これを見直すということで、土地利用やまちづくりがこれから固まり、コンパクトシティ構想が進められると思うが、成果指標は「コンパクトシティ推進委員会」になっているので、構想というのは何かを想定し、それを進める委員会ということなのかというのと、必ずしも明確ではないということであるが、1回の開催で何が出来るかというのが良く分からない。

事務局：指摘のとおりであると思うが、今後都市計画マスタープランを見直す担当課と、そこまで詰めていないというのが現実なので、そこは少しゆるい形になっている。また、これは達成目標であるため、自分の感覚になるが1回で終わるとは思っていない。令和9年度には、3～4回やると思うので、達成する目標として取り組んでいくことは出来ると思う。

委員：私は「1」でも良いと思っているが、曖昧さが付きまとしており、「コンパクトシティ推進委

員会」とあると、構想があるかのようにみえるが、前の方では「都市計画マスタープラン」の見直しで、コンパクトシティ構想を推進する、そのためには構想を立案というのがあると思う。今の町長が出しているのは1つの構想であるが、必ずしも明確なものではない。そのあたりが分かるようになれば、「1」でも問題ない。そのあたりを分かるように、配慮いただければと思う。

会 長：振興審議会の委員から話を聞いた際に、「数値目標が入ったのは良いが、この目標は何なのか」という意見もあった。今回、答申の中にPDCAを入れたのは、計画自体を色々皆で話し合いながら、議論してやってみたいということで、今のような議論もされてくると思う。これからなので、委員にも理解していただけるか。

委 員：この計画そのものも成果品となり、今後どう進めるかというのは実施計画で扱うと思うが、曖昧な部分は補足をしてもらうか、聞かれれば説明をしてもらうかではないか。

会 長：他の分野でも曖昧な部分はあったが、プランニングの時点で、色々な話を議論していく。こんな形でまちづくりを進めていきたいということで、委員の半分くらいが数値の話が出てきた。ただし、計画を作るにしても幅広いので、振興審議会から始める意見も出てきた。計画を議論することから始めることと、数値が入ったのは前期基本計画からの進歩なので、猶予も含め議論するのはいかがか。

委 員：成果指標が示されているが、全体で何パーセントくらいが実現すると考えているのか。

事務局：基本的には、100%達成するのが計画だと考えている。前期基本計画でいえば、p.26に関連の記載がある。前期基本計画ではKPIを設けておらず、町職員による評価であり、ワークショップ等で評価したものでもないため、町民の方がどう考えているかは分からない部分がある。そのため、今回の計画よりKPIを設けることとした。

委 員：コンパクトシティについても、100%実現していかなければならないと思うが、難しい問題もかなりあるのではないか。ただし、これからもやっていかないと、白子町では空き家ばかりが目立つ。何年くらいで、コンパクトシティが実現していくものなのか疑問に思う。

事務局：現時点で、指標に出しているのが「コンパクトシティ推進委員会の会議」であり、コンパクトシティを5年で完成するというにはなっていない。コンパクトシティについても、都市計画マスタープランを見直していく中で、何をコンパクトシティの機能に位置付けるかは、これからの議論になるのではないか。そういった中で、「学校をどうするか」といった課題もある。現時点では、学校の問題も計画に書かれているが、長い年月の中で、役場の在り方も含め、何年かかるか今答えるのは難しいかと思う。また、役場が立て替えられる年月についても、今お答えするのが難しい。

委 員：急がなくてはならない問題もある。小学校も1学年に20人程度で、クラス替えがないことも問題ではないか。親目線の意見としては、統合を早めていただきたい。競争力もなくなるという問題もあり、早めに対処していただきたい。

会 長：振興審議会委員のヒアリングを進める中で、老朽化をしている施設を残すより、選択と集中を行うという意見も聞かれた。建設の場合は長期の計画があるが、そこをどう審議し、何を優先するかは今後議論すると思うが、方向性などについてはしっかりしてもらいたい。

(2) 意見募集（パブリックコメント）の結果について

大塚企画財政課長補佐より、意見募集（パブリックコメント）について、説明があった。

○審議

委員：パブリックコメントは町ホームページにてお知らせして実施したとの説明であったが、他の方法は考えなかったのか。他の自治体の事例も知りたい。

事務局：広報誌を使用して、パブリックコメントを行う事例を見たことはある。

委員：今回は、ホームページのみということか。

事務局：そうである。委員から指摘があったように、パブリックコメントをホームページのみの実施で良いのかという疑問は残る。また、本町ではSNSの発信が弱いということがあり、まだ出来ていない点もある。ただし、最近では白子町公式LINEの運用も始まったところである。こういったものが、もう少し早く出来ていれば、LINEを使ったパブリックコメントも出来たと思われ、その点は反省点でもある。後期基本計画については検討が一旦終わりになるが、今後はKPIの評価や、令和5年度は他の計画の検討も予定されているため、そういった中で必要があれば今回の反省点をフィードバックし、情報提供や今後の在り方を検討したい。

委員：パブリックコメントは、0件であったのか。

事務局：0件であった。振興審議会の結果はホームページに掲載しており、その質問はあったが、今回のパブリックコメントについての意見は無かった。

会長：町の計画の発信は課題であり、SNSが良いのかは分からないが、町民に広く知ってもらうというのは課題である。方法は、課題として考えていただきたい。

委員：パブリックコメントは、この会議資料を掲載しているのか。

事務局：議員に配布したものと同じになるが、この会議資料を使用している。

委員：これを読む人は、正直いないのではないかと。もし、可能であれば一般の人にも分かりやすい形で、見ていただけるものを作るのがスタートではないかと。今では、パワーポイントで分かりやすく、絵にする人もいないのではないかと。

会長：発信の中で、発信の仕方も課題ではないかと。他の自治体でも、住民が聞いていただけないという意見も聞く。指摘があったように、これをただ単に載せているだけだからという可能性もある。

事務局：最終的な計画書の他に、概要書も作成をする予定である。そちらの方は、読みやすいようになるかと思う。ただし、途中では概要書を作成していなかったため、今後は分かりやすい資料をつくるような方法で進めていきたい。

併せて、全文を読まないという人も考えられるため、自分の業種や関連する項目は読んでいるという人は、いるのではないかと。そういった人が、振興審議会の議事録を読み、問い合わせがあったことは事実であるため、そういった意味で概要版・要約版の工夫もあっては良かったのではないかと。パブリックコメントも含めて、今後の課題になるのではないかと。他の課にもフィードバックを行い、情報提供も行いたい。

また、もう1つの反省点として、広報での告知の件も触れたが、第2回振興審議会が開催する時点では広報の締切が過ぎているということもあり、回覧版での告知も考えられた。その点は改善をしていきたい。

会長：(株)ぎょうせいに聞きたいが、情報発信で成功しているパターンはあるのか。

(株)ぎょうせい：成功と判断するは難しいが、市町村職員と住民がSNSを共有して情報交換するという事例は聞いたことがある。

一方で、掲示板を見るという人もまだ多く、掲示板での発信も考えられる。成功例というのは難しいが、最新のものとアナログな方法の両方を使い、情報発信を考えていくことになるのではないかと。

(3) 後期基本計画（最終案）について

大塚企画財政課長補佐より、後期基本計画（最終案）について、説明があった。

○審議

委員：用語集をつくるという説明があったが、新聞等でも「関係人口」が大きく取り上げられており、この計画でも「関係人口」や「交流人口」「定住」が取り上げられている。「関係人口」について、分からない方もいるかと思い、用語集にも入れていただきたい。

また、計画は問題ないと思うが、気になったのが「障害（障がい）」の表記で、白子町は「がい」が平仮名であり、前期基本計画や障害者計画でも内容は平仮名なので、そのままが良いかと思う。中には、障がい者の団体で「害」の表記を残してほしいという団体もある。「障害」というのは、そのようなことを気にするのではなく、社会と関わる中で、偏見や障壁を取り除くのが障害福祉であるとの考えもある。そのため、反対意見も根強く残っているのも考えてもらいたい。

委員：p.75の「基本政策4 にぎわいと活力を創出するまちづくり」で、4-1「農業」から4-4「観光」までであるが、3番目に「水産業」が置かれている意味はあるのか。通常は、第1次産業、第2次産業、第3次産業の順に慣れているのだが、あえて水産業を3番目にもってくる狙いはあるのか。

事務局：白子町の主たる産業として、「農業」「商工業」「観光業」であるが、「水産業」はベースとなる部分が少なく、そのような順番になった。

委員：主要とは、どのような意味なのか。生産額で決めているのか。あるいは、総合的に判断しているのか。特に理由が無ければ、「観光」は今落ち込んでいるが、以前は60万人～80万人おり、以前の低い数値で目標を設定している。

事務局：p.39に施策の体系があり、「水産業」が3番目にあるが、前期基本計画を受けている部分もある。前期基本計画では、「農林水産業の振興」がはじめに来ており、次の「観光の振興」、「商業・工業の振興」と来ている。その中で、「水産業」という言葉があり、若干残っている。ただし、順番としては、第1次産業でまとめるという方が良いかと思う。この点については、再度確認を行う。

会長：意図があるわけではないのか。

事務局：大きな意図があるわけではない。前期基本計画では「農林業・水産業」が1つのくくりになっている。それが、今回大きく変更になり、水産業の言葉が生きていたので、残ったのかと思う。「農業」と「商工業」の間に「水産業」がある方がスムーズかとも思うので、整理する。(株)ぎょうせいとも調整し、ページの入れ替えを行う。

会長：「水産業」についても、衰退をしている中で解決すべき課題ではないか。

委員：「水産業」について、p.79の現状と課題に「青のりの不漁が続いている」「青のりは、漁場環境

の改善を図り生産の回復に向けて」とある。今は玉ねぎ、テニス、観光の産業があるが、昔は「青のり」であった。「青のり」の現状と将来性はどのようなものか。

委員：「青のり」はまだ希望があると思う。種もある。ただし、温暖化の影響もあつてか、流れてしまう。県とも協力し、青のりの育成を行っているが、落ちてしまう。陸上養殖も考えているため、可能性が無いわけではないが、町、県、企業も入らないと出来ないのではないかと。天然で作ることも考えるが、不可能であれば、陸上で行う。

委員：正月の三日も南白亀川の青のりが欲しいと感じる。

委員：白子町も堤防があり、すぐに青のりが付くが、落ちてしまう。「青のり」は高いが、それは取れないからで、取ればまた値段も変わるのではないかと。2015～20年位も取れない時期があつた。また、そういう時期が来るのではないかと。

会長：伝統的な文化も残せば、町の振興にも関わらないかと。少し細かいところにもなってきたので、計画が出来た後にも話し合っていきたい。

今回は、幅広いジャンルなので、個別の意見もあつたが、この計画の後に考えて行ければと思う。数字が入ったことはじめの1歩なので、これからPDCAを回せばと思う。

委員：p.7の「(2)交流及び連携の可能性と現状」の観光のところ、「令和元(2019)年以前は年間約60～80万人」とあるが、コロナ禍で減少したことも触れるべきではないかと。実際はこうであるが、潜在的には「約60～80万人」であることも示すべきではないかと。

また、p.46の健康づくり・地域医療のところ、「フレイル」「健幸ポイント事業」に※印があるが、これは補足なのか、資料編なのか。

(株)ぎょうせい：「フレイル」「健幸ポイント事業」など、聞きなれない言葉には、用語集で解説をする予定である。お配りした資料には、検討段階のものが残ってしまった。製本する際には、訂正をする。

委員：成果指標で「-」となっている箇所がもう一点あつた。6-6の産官学連携にある〈成果指標〉で、「連携協定等を締結した企業数」が「-」になっている。これは、企業数なので「社」なのか。

(株)ぎょうせい：「社」を入れることで、考える。

委員：p.48の1-2地域福祉の〈成果指標〉も単位が「社」になっているため、こういったものに類するのではないかと。こういったところを見直していただきたい。

事務局：p.7の「交流及び連携の可能性と現状」についても、観光客数は令和元年以前が60～80万人であり、現状の落ち込んだ数字も示すということで、調整をする。

会長：誤字脱字についても最期確認を行い、意見は修正するという事でよろしいか。

一同：同意

会長：これで答申に移ってよろしいか。

一同：同意

(4) 町長への答申について

芹澤会長より、答申書(案)について、説明があつた。

○審議

意見なし

4. 町長への答申

芹澤会長より、石井町長に対して答申が行われた。

5. 閉会

大塚企画財政課長補佐より閉会の言葉。